

豊漁の出稼船

ホクくくで歸港

筆頭は一隻で三萬五千圓

江名濱有卦に入る

江名町大字江名並に中之作の底曳漁船は既報の如く去る六月十五日からの底曳漁業禁漁期間中の不振打開にカムチャツカ方面の遠洋漁業出稼に十数隻の出動を見られたが、舊盆前に一隻を残すのみが何れも大漁の報知を報らして歸港、江名加澤萬五郎氏所有萬盛丸の三萬五千餘圓(純益一萬三千餘圓)の漁獲高を筆頭に中之作第二東丸、安榮丸の各三萬餘圓

赤い活潑な

處を展開する

防空演習に藝妓も参加

平町藝妓屋組合は來月執行される防空演習に關しこの程藝妓も十名を動員して特設防護團を結成、日本髪に當團のこれが訓練は相當になつてゐる。

少年團は又「威」の教育であるところから、手の合圖でも動作する、指導者が腕を左右にして「横隊に集れ」とか、頭上にて腕を合せて「圓形に集れ」とかのサインで普通の耳からの號令よりも速やかに無言で諸動作を爲し得るのである。

それに之に似た號笛の合圖がある、これも健兒等と指導者との間の約束であつて、長一聲、短二聲、即ち「ピー、ピー」が全員集合であるとか、短一聲長一聲即ち「ビ、ビ」が當番集合であるとかのサインもあり又手の合圖の如く号令として

大島の健兒行

少年團教育と實習所

渡邊啓二

(諸訓練)

襟布の利用法としては、三角布として傷病兵の手當や背負ふ時に荷物運搬の風呂敷の代に、肩あてや、鉢巻に、暴風や吹雪の時の顔覆ひや、煙よけマスクに、健兒善行のしるしに、手旗信號、結索練習に、又一つの仲間としるしとしての同じ色に染め出された襟布は健兒の温い心のあらはれである。

手旗信號法は原則より始め交信法に及ぶのであるが

日赤の臨時救護所

防空演習の際平町に設置

日本赤十字社福島支部では來月の防空演習に際し平町に臨時救護所(救護班)は警員及支部書記各一名、看護婦二名を以つて編成)を第三小學校に設置することに

鰯油製造

縣營検査

(既報)石城郡下各漁業組合では鰯漁期を控へて悪質漁油驅逐策として縣營検査制度の實施方を要望、過般來縣營局に猛運動中であつたがこの程清瀧農林技師が來

湯本湯場認可

反對派を押し切つて

町長派勝つ

(既報)紛糾に紛糾して繼續を危ぶまれてゐた湯本温泉を危ぶられてゐた湯本温泉を危ぶられてゐる時間を利用して工夫創作をして行く作業として閑時作業がある、健兒によりて廢物を利用した而も實用に適する作業がなされる。例へば設営中是非造らねばならなかつた塵捨場、便所、物置場等の外に木、石、竹、薦等の利用によりて食器棚、食卓、手拭かけ、貯蔵庫、熊手、箒方位盤、日時計等々藝術的な雅味のある物ができる。

かく考へる時健兒教育のすべてが閑時作業の有用化とも思はれるし、反面それだけ餘暇がないことにもなる吾々が實生活にこの閑時を有用化したならばどれ程能率が上がるか知れない。

氏家検事出張

氏家検事は明一日福島で光行検事總長臨席の下に開かれる管内事務打合せ會出席の爲め今三十一日平發午前十一時十分で出張した

短期現役除隊

四月來短期現役兵として入營中であつた平第一四家利雄、平第二佐藤惣一の兩訓導は此程除隊となり明一日から出勤教鞭をとるので兩校共多少の異動が行はれる

單に漁油のみに限らず魚肥煮干、鰯乾製品にも及ぼしこれに依つて品質向上を圖ると共に積極的に改良指導に當らうと意氣込まれるものである

平局演習豫行

既報 去る廿五日防空演習に關する講習會を開いた平郵便局では局員の腕試しの爲め來月八日頃局内の豫行演習を實施し局内の燈火管制、警戒及び非常心得に就いて萬全を期すると

聯合教員大會

一道六縣下の聯合教員大會は來る九月六日米澤市は開かれるが本郡からには篠山平第一、千葉第二、西山小名濱の各校長が出席する由

江名築堤着工

既報 東北振興會豫算で着工することになつた江名港築堤並に浚渫工事は愈々來月十五日起工式を舉行する

秋刀魚證明書

出漁 期近づいた郡下各濱では早くも秋刀魚漁の準備に忙殺されてゐることは既報したが本年度縣下の出漁證明書交付地は宮城縣女川港に決定した

四倉蕪市況

四倉蕪市場廿九、卅兩日の取引は

二十九日は出廻千七百四十七貫、最高四圓六十四錢、安値四圓十五錢、馴卅日は出廻六百九十二貫九百八十匁、高値四圓六十五錢、安値四圓三十錢、安値四圓五十二錢、三十五掛で前日取引より平均二十錢高の強氣を見せた

平町人事

△久保町四鈴木初義氏二男 義次さん

町長派勝つ

復活の湯場問題は昔日の温泉街湯本を挽回せんとする町長派が反對を押し切つて關係方面に猛運動を續けてゐた處二十九日發掘の認可があり愈々本格的な發掘作業を繼續出来ることに決定町長派に軍配が揚つた

荒縄で吊し下げ

十七時間も折檻

土工仲間の恐るべきリンチ

暴力行爲で四名が檢舉

錦村字中田生れ當時住所不定暴行脅迫前科四犯推名と松原政雄(三)小名濱町字上横町生れ當時住所不定立原こと星廣(三)の外二名は茨城縣松原警察署に檢舉され取調べ中の處、同人等は同縣高萩町に昭和八組工場の着工と共に東京市浅草高橋組の配下と稱して入り込み土木請負業を看板に横行、人絹工場職請負三木勝組の配下藤田某を松原方に無理に連れ込み天井に荒縄を

以つて吊しあげ夕刻から翌朝まで十七時間に亘つて打つ蹴る毆るの暴虐極まるリンチを行つた外これを種に前記三木勝を脅かし百圓を強奪、更に同會社請負の磯原町吉田兼吉に因念をつけ二十圓を收受したのを手始めに三十圓、十圓、三十圓と三件の恐喝を働へたこと判明、他にも相當餘罪あり近く暴力行爲取締違反で送検される筈

親子連れて

山野を荒す馬

人も無げな振舞に村民憤慨

永戸村字渡戸地内に去る七月頃から親子連三頭の荒馬が出没して畑地を荒したり果ては村うちを裕々横行して人もなげな振舞に同區長藁谷新作氏が緊留保護を加へて飼育してゐるが、同村附近山林は放牧地が多いので何れかの放地から逃げ出して來たものらしく鹿毛の牝十五才位、同一才位、と栗毛の牡三才位の三頭である

二学期の

始業初め

平町各中卒學校及び各小學校は明日一日から第二学期の始業開始されるが各小學校は引續き朝の豫習時間を廢し二十日迄短縮授業を行ふ

尼子野球勝つ

平町船年團分團對抗軟式野球大會の優賞候補として目される

闇に葬つた胎兒

信仰の光から明みに

事件の全貌暴露

既報米澤市角東町長藏二女青柳みつ(三)が年奉公中妻子ある主家の件に関係不義の子を宿した揚句始末に窮して墮胎しその後信仰生活に入つて始めて過去の罪が恐しくなり米澤署に自首した三阪村の墮胎事件關係者三阪村大字下三阪字前澤農阿部忠雄長男庫造(三)及び同人の義母圓谷ケサヨ(三)の兩名は近く平檢事局

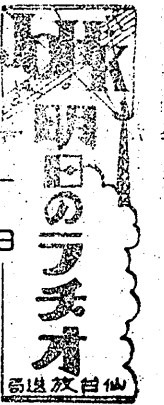
餅つきの火から

赤井村で三棟焼く

赤井村字高萩宇山ノ入河隈乗松方物置から昨卅日午前十一時半頃發火、同十二時五十分住居、物置、風呂場の三棟を全焼して同村同居人増田西松(三)が同朝餅つきした取灰の不始末から

幼童連が盗む

箕輪村吉田和(三)篠原正友(三)新妻清太郎(三)何れも假名の三名は去る廿五日



今晚は北西の風 晴後夕立模様 明日は南の風晴 後夕立模様

今日 晩の部
後六、〇〇 子供の時間
「夏休み玉手箱」桃谷中繼
後七、三〇 日曜特輯ニエ
後八、〇〇 鳥の物語 田
中末吉他
後八、二〇 地唄 富崎春
昇他
零で軽く一蹴大勝した

明日の部
後六、三〇 英語會話講座
レツドマン 堀英四郎
後七、〇〇 朝の修養一中
から廿七日迄の三日間に隣村好間村字權現堂農佐久間太一さん方の畑に實つてゐた西瓜約二百五十貫價格五十圓を窃取自宅物置や籠の中に隠してゐたこと發覺、平署で三十日檢舉したが子供の仕事としては餘りにも巧妙なので背後關係あるものと睨んで平署で調べてゐる

新學期の行事 平第一、第二、第三の各小學校は明日一日午前十時から第一校に三校打合せ會を開き二學期の行事及び近く行はれる防空演習に關し種々協議する

平職界紹介所報告
人々を求めの方
出前持 十八才迄 拾五圓
小店員 十九才迄 拾十圓
尋卒以上
雑役 二十才迄 拾十圓
トラツク助手 二十才前後 給面談
女中 二十才迄 給六圓
女中 十五才位 給面談
寫眞術見習 二十才迄 給仕着小使 高女卒程度
職を求めの方
見習看護婦 二十二才
見習保母 實科女卒 二十二才
給仕 十八才 高卒
漁夫 二十七才 尋卒
同 二十五才 尋一修
店員 十八才 高卒

野宿して賊を働く

無斷で家出して以來

各方面に手當り次第 署で檢舉取調べた處去月二十九日無斷家を飛び出して以來同町海岸或はバラツクに野宿しては盜を働き他に七件百餘圓の盜盜を自白した

社告

明日は舊盆十六日に相當従業員慰安のため休刊仕候間御諒承願上候
八月卅一日

常磐毎日新聞社

から鐵類その他五十餘圓の盜盜を働へたこと發覺、平

裁判一束

△既報簡易保險料百五圓四



繞る瓦解の舟人々 (船上談) 悟道軒圓玉(作) 尾至陽(書)

清水港の惨敗

駿州清水港の人々は幕府の境遇に同情をする者が多く、咸臨丸が港へ漂着した時はその乗組員を殿様々と大切に致し酒肴をおくつて慰める、すると九月十八日のこと寺にとまつてゐた土肥八十三郎、松江竹三郎、久保喜三郎、土井伊織、これらは何れも將校ですがその他十有余人、土地の者からおくられた肴で杯をあげてゐたが

○「まだ艦の修繕は出来ぬか」とそれに居つた船大工にたづねた 大「左様でございます、何しろ機械で動く船でございますから私共の手ではつくらうことの出来ないところがございまして、そこで横濱へ使を出しましてあの艦に手入をすることの出来る職人を雇つて参り、大急ぎで仕事にかつて居りますからもう十日も経ちましたならば何うやら動くことも出来るやうになるだらうと思ひます」

大「長まりました、一生懸命に職人も働いて居ります……」 ○「まあ一杯やれ、かう云ふ時には酒でも飲んで勇氣をつけなければいかん



と話してゐるとドボンと響き渡る砲聲これは一大事と一その席を立つた時に駆け来た一人 △「旦那が大變でございます、官軍の船が参りましたと戦ひがはじまりました」とつげた、土肥八十三郎、松江竹三郎、久保喜三郎、土井伊織は大きにおどろきさては官軍の軍艦来たつて

攻撃をするか、一刀を引つぎげ寺院を出て海岸近く來ると咸臨丸を取りまいた三艘の船、帆柱が高く掲げた旗によつて富士山丸、武蔵丸、飛龍丸と云ふことが判つた、しかし咸臨丸を救ふことは出来ない、漁船はこれにいつないであれどこの場合とて漁師は船を出しません、これは官軍をおそれるため、人々は咸臨丸の危急を目前に見ながら手を下すことが出来ない、そのうちに咸臨丸からドツと火を噴き出した、これに乗

つてゐたものはバラバラ、甲板に集まるところを官軍の船から射撃する、バラバラ、バラバラ、打ち仆れ、または海へおちる、イヤその惨状は目もあてられぬ、すると今度は官軍から岸をのぞんで砲丸をおくつて來た、こんな物を送られてはあぶない、土肥、松江、久保、土井の四部下の兵

十有余人と共に涙を流してこゝを立ちのく、ところでこの攻撃を受けて乗組員の十中の八九戦死した、官軍の船は咸臨丸を散々になやましてもうこれ以下いともづ錨をおろすことにした、ところが咸臨丸乗組の人々の死体が港内に漂ひそれがために漁師は沖へ船を出すことも出来ない ○「困つたものだ、こんなに水死人がゐるは漁に出ることもならぬ、ハチ困つたな」

○「その死人を片付けてしまへ、沖へ突き出すとか陸へ引き上げて埋めてしまへ……」 ○「しかし氣の毒なことだ、徳川様のために働いたこの人々が佛になつたを魚の餌にするは勿体ねえことだ、南無阿彌陀佛々々々々々々、まあ何にしても片付けねばなるめえ」

東下有名な俠客です ○「親分、海は大騒ぎでございますませ」 と自分が云つた、次郎長はそれを聞いて苦い顔をした。

店主	が	店員
を	連	れて
か	れ	る
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
酒	場	

平・田町
レストサロン
電三五二番

国旗提灯 スカヤ 安齊外科醫院 平町・田町 電話四七五番

夏の御飲み物 アイスクリーム アツキアイス ミルクセーキ 別味 みつ豆 ソーダ水 色々 特製 氷あづき 例年通り始めました ほどよく香のよい宇治名産氷挽茶、御土産に好適なクリームモナカも御座います。 とても美味しい 『氷すい か』

平ニ暮るる夏通り 魚清食堂 電話六三三

お待兼ねの…… 平名物(今年の!) 七夕祭の工ハガキ 色刷 八枚組 一組 二十銭 一部数に限りありますから御早く御求めを願ひます。 平驛前 いづみや玩具店

お醤油は ヤマフル 福島縣平町

醤油味噌 たひら正宗 鯉節食料品

醸造元 鹽屋

電話二七〇番 山崎與三郎